カワイこどもピアノコンクールの審査について

●審査の観点

各部門の各コース相応の演奏が行われる中で、楽曲の難易度によって生じる優劣よりも、以下のような点を重視して審査します。

1. 選んだ曲に関して、何かを表現しようとする気持ちが表れているか。
   - 音に気持ちを込め、聴き手に伝えようとしているか。
   - 精一杯の力を出して（出そうとして）いるか。
   - 積極性があるか。等

2. 学習の跡が演奏に表れているか。
   - 単なる器用さで演奏するのではなく、美しい音を創ろうと努力した成果が表れているか。
   - フレーズを意識した音楽の歌わせ方や、フレーズの切れ目が意識できているか。
   - 和音の響きやリズム等が丁寧かつ適切に表現できているか。等

3. アンサンブルによって、楽曲をより良く表現しようとしているか。（連弾部門のみ）
   - セカンド（先生パート）の演奏を聴きながら弾いているか。
   - セカンド（先生パート）の演奏に触発されながら、生き生きとした演奏をしているか。

   ※セカンド（先生パート）の演奏は審査の対象外ですが、演奏を生徒と指導者との共同による成果として、より良いアンサンブルを目指していく姿勢が求められます。

●審査にあたり考慮される事項

- 一般的なコンクール審査は、減点方式による傾向がありますが、
  本コンクールにおいては、参加者のプラス面を発見・評価する加点の意識をもって行われます。
- 演奏を生徒と指導者との共同による成果として観ます。

マンツーマンで行われるピアノ学習では、指導者の指示が演奏に影響をもたらすことはごく自然なことであり、特に学習初期の段階では、子ども自身の個性的な表現は起こりにくいと考えられがちです。しかし、学習の過程で個性はある程度醸し出されますし、学習当初から積極的に個性を表現している場合もあると考えます。このため、本コンクールにおける演奏は、一人ひとりの個性が最大限に導き出された、指導者との共同による成果として評価されます。

・両部門 B・Cコース	演奏中のミスや読譜の誤りについては、致命的なミスを例外として、緩やかに観ます。
・両部門 B・Cコース	ピアノという楽器を十分に鳴らすには身体的に無理がある場合があるため、デュナーミクの幅やタッチ等については、緩やかに観ます。
・ソロ部門 中学生・Aコース	楽曲の難易度や規模に関わらず、選んだ楽曲をよりよく理解しようとしているか、そして楽曲構造を反映した演奏表現に仕上げられているかを重視して観ます。
・ソロ部門 Cコース	「課題曲1」は、上記「審査の観点 1」とともに、楽曲のイメージを自分なりに捉え楽しんで弾いているかを重視して観ます。 「課題曲2」は、上記「審査の観点 2」によって観ます。
・連弾部門 中学生・Aコース	楽曲の難易度や規模に関わらず、セカンド（先生パート）との親和性が十分に発揮されているか、そして楽曲構造を反映した演奏表現に仕上げられているかを重視して観ます。